

城市漫歩シリーズ BEIJING  
**WALKER**

<http://www.cnwalker.com>

2002  
**12**  
No.6

New!  
Cinema  
面白いニュース  
(四コママンガ)

China Dreamer

日本航空 金子晴彦氏

散歩de漫歩

地下鉄特集その二 国貨

Artist

両極にある真実 楊少斌

Event Report

オヘア「ちゃんちき」

紫禁城のロマンス

—西太后とその男たち—

Travel

雲南省《麗江》《大理》

Interview 1  
**岩城宏之**

Interview 2  
**羅大佑**

Interview 3  
**諏訪内晶子**

特集

**ロマンチック**

☆**北京**

五洲传播出版社



# ロマンチック☆胡同

北京でもっともロマンチックな場所は、変わりゆく胡同。そんな胡同について、アーティスト張大力が語る。ロマンチックでせつない彼の言葉を想いながら、近代化の波に呑み込まれてしまいそうな儂い街並みを自分の足で歩いてみたい。



一九八三年、僕が初めて北京に足を踏み入れた年。この大都会はその時すでにもう変化に向かって足を踏み出していた。けれど、まだまだ昔から語り続けられてきた風格の骨格のようなものが十分あった。赤色の天安門、青色の天壇、灰色の胡同；昔を偲ぶとかそんなんじゃないやなくて；それらの景色は印象深く、今でも僕の心に存在しているんだ。

故宮を中心に、まるで大木の根つこのように存在していた胡同から感じる歴史と文化の匂い。胡同の中でドキドキして立ちすくむ。僕は一目で恋に落ちた。その当時、僕の学校は光華路にあった。授業の後は決まって、美術館を訪れ、友達の家へ行く。浮き立つような軽い足取りで進む胡同。剪子胡同から東四十条までの道。立ち昇る懐かしさは故郷の気配。家々の屋根に茂る草に夕焼け小焼け。ゆらゆら揺らめく光の中に僕は確かな何かを見た。

二十一年が過ぎようとしている。現在の東四十条は平安大道と呼ばれ、古い樹木は姿を消した。道が広がり、両脇には古代建築を装ったコンクリートの建物が立ち並び、無数の車が走り行く。僕は相変わらず、夕焼けの太陽を眺めながら、ゆったりと進む。オレンジ色の光の向こうに見える懐かしき光景。





東四十条 1999年



故宮 1998年



西单手帕胡同 1999年



旧鼓楼大街 1996年



作者 1998年



東城校尉胡同 1996年



朝外神路街 1998年



西单興隆胡同 1995年



朝陽門外 1998年



### 那里~THERE cafe

—素適なフォトグラフがいっぱい—

東城区什刹海前海後門橋東側帽兒胡同100メートル奥 ☎6403・6082



### ロマンチック☆バー in 胡同

散歩の途中で  
寄ってみたく  
つろぎたい

写真、カメラ機材がセンスよく置かれる店内は、時間が過ぎるのも忘れてしまいそうな、居心地の良さ。常連が多いのも納得。



アーティスト達が集まるということでも有名なお店。写真は最近オープンしたノースモックエリアと、オーナーの小唄兒さん。



### 過客~PASS BY BAR

—アーティストックな雰囲気—

東城区交道口南鐘鼓巷108号四合院内 ☎8403・800